

SEIGAIHA

NIIGATA SANGYO UNIVERSITY

新潟産業大学報 青海波 (せいがいは)

2012
Vol.24

学長巻頭言 「2012年から2013年へつなぐ」 1

CAMPUS TOPICS 3

クラブ・サークル活動 5

図書館だより 6

キャリアサポート 7

BACK TO SCHOOL (生涯学習センター) 9

INFORMATION 10



「スコットランドのエディンバラ城」(写真の説明は裏表紙)



新潟産業大学
NIIGATA SANGYO UNIVERSITY

巻頭言

2012年から 2013年へつなぐ

学長
広川 俊男



早目の初雪に驚かされましたが、その後は少し落ち着いて、気候としては、例年と大きな差のない年末年始になりそうです。しかし、政治の世界では年末に政権交代があり、慌ただしく2013年に突入します。1年前は、東日本大震災の混乱と復旧のさ中に新年を迎えました。その後は、大雪と猛暑、原子力発電所の停止に伴う節電の呼びかけ、日中、日韓の領土をめぐる対立の深まり……、大変な時期に、さらに深刻な事態が次々に加わり、どんなに楽天的な人でも不安を感じたり悩んだりしたのではないのでしょうか。

私自身もその都度、真剣に考え、悩み、そして、行動してきました。振り返れば、大変ではあったけれども、25年目を迎えた新潟産業大学に相応しいうれしい出来事もたくさんあったと感じています。

立派に成長した卒業生を送り出し、希望に燃えた新入生を迎えました。元気で学ぶ意欲に満ち満ちた海外からの短期セミナー生も加わりました。在学生は、指導の教職員と共に多くの成果を生み出してくれました。

苦勞を重ねながらも4年生は、就職活動に精を出し、内定を得ています。

柏崎の中心商店街に「まちかど研究室」が立ちあがり、動画サイトのユーチューブで柏崎を世界に発信する「柏崎最高プロジェクト」などの取り組みが始まりました。また、「起業家フォーラムin新潟」での

審査員奨励賞受賞や「十日町ビジネスコンテスト」での決勝進出もありました。

部活動では、空手道部が北信越大会個人組手で1、2位を独占したほか、水球、卓球、ライフセービングの各部が全国大会で活躍し、「小さいがしっかりと頑張る大学」をアピールしてくれました。

こうした皆さんの活躍を、学長として誇らしく思います。

新潟産業大学は4年前に、「コンパクト・ユニバーシティ」への転換を宣言し、それまでの複数の学部を経済学部ひとつにまとめ、経済経営学科と文化経済学科の1学部2学科に再編しました。そして、建学の精神をしっかりと踏まえたミッション（本学の使命）を「地域社会や企業を主体的に支える人材の育成」と定めました。この4月には、その最初の卒業生を世に送り出すことになりました。

第一歩は大切です。準備をするのとはな

いのとは大きな違いが存在します。

「今、何をすることが良いのか」「何がで

きるのか」、卒業予定者には、残された3ヶ月間を、教職員や仲間と共に考え、有効に使って欲しいと願うものです。そのことが、きつと同期生の絆をさらに強固にしてくれるはず

新しい学長には筑波大学学長や日本学生支援機構の理事長などを歴任された北原保雄先生が就任されます。国語学・言語学の権威で、日本語文法関連の多数の著書や「明鏡国語辞典」「日本語逆引き辞典」などの編者としても知られています。「問題な日本語」シリーズで日本語ブームを巻き起こされたり、TBS「クイズ日本語王」はじめ、メディアにもしばしば登場される著名人です。

先生は本学のある柏崎市軽井川のご出身で、平成19年より本学の経営改革推進室顧問、理事、評議員等を務めていただいております。

学長としての北原先生は、「地域おこし大学」「人づくり大学」として認知され発展する、特色のある大学づくりを目指しております。

柏崎という地域を自然、産業、文化に恵まれた環境と捉え、その中で、実践を活かしながら「地域おこし」の経済学を教育研究すること、また、「人づくり大学」として、マンモス大学にはできない丁寧な教育をすることの2つの特色を掲げて大学のさらなる発展を目指す構想です。

2013年が新潟産業大学にとって大きな飛躍の年となるよう期待しています。

平成24年12月

新学長に

北原保雄氏が就任

広川俊男学長の任期満了にともない、北原保雄氏（本学院理事・評議員）が次期学長に就任いたします。任期は平成25年4月1日から4年間です。

北原保雄氏 略歴

柏崎市出身 76歳

◇文学博士

◇元筑波大学学長

元独立行政法人日本学生支援機構理事長

◇現 学校法人柏専学院 理事、評議員

◇瑞宝重光章受章（平成24年春）

◇著書 「日本国語大辞典」、「明鏡国語辞典」、「問題な日本語」、「達人の日本語」他多数



11月30日に行われた就任記者会見の席上で北原新学長は、少子化と学生確保の問題が全国の大学の共通の課題である中、それぞれの大学が特徴を出していくことが今後一層必要不可欠であり、本学は其中で「地域おこし大学」と「人づくり大学」の二つについてオンラインワンの大学を目指したい、との考えを明らかにしました。

●「地域おこし大学」として、経済学的見地からの地域振興の研究、地域の芸術文化などを生かしたまちおこし等を通じて大学と地域が双方元気になるような方策を検討したい。

●「人づくり大学」としては、広川学長の「コンパクトユニバーシティ構想」を継承し、社会に通用する付加価値を獲得

した学生を送り出せるよう、一人ひとりの学生に対して丁寧な教育を行う「面倒見大学」となって、学生自らが自己記録更新や自己研鑽に喜びを見いだせるような教育環境を整備したい。

また北原新学長は日本の今後の大学進学率の増加について、特に地方ではその伸びしろが大きいのではないかと期待から、「地域おこし」と「人づくり」を柱にした大学運営の方針がしっかりと実を結ぶように努力したい、と決意を述べました。



十日町市ビジネスコンテストに出場！

12月15日(土) 十日町市クロスデンにおいて「トオコンseason3」の本選会が行われました。本学からは、10月に実施された新潟予選会を勝ち上がったチーム渡邊ゼミが発表を行いました。本選会には、新潟予選会と東京予選会の上位各3チームの計6チームが進出しました。今回のトオコンは、「十日町を全国プレイクさせるビジネス」と「過疎を逆手にとるビジネス」の何れかのテーマを選択し、ビジネスプランを考え提案、プレゼンし競い合うものです。高い評価を受けたビジネスプランについては、地元企業とマッチングし商品化する可能性があります。

があります。

本学のチーム渡邊ゼミ(3年西山聡美さん・3年間里奈さん)は、タイトル「クイズラリーで商店街をにぎやかに」で地元商店街の活性化を目指し、従来にない工夫を凝らしたクイズラリーで親子連れや学生達若者を商店街に招き入れ賑わいをつくり、最終目標としてこのビジネスモデルを全国に



普及させていく、というプランを発表しました。
「チーム渡邊ゼミ」は残念ながら本選会での入賞(上位3チーム)を逃す結果となりましたが、予選会から数段とブラッシュアップさせたパフォーマンスはすばらしく、この経験を活かして更なるステップへ繋げていくことが大いに期待される内容でした。

今年も紅葉祭で大いに盛り上がる！

11月3日及び4日の二日間、学園祭「第24回紅葉祭」が開催されました。両日併せて延べ一四〇〇人の皆様からご来場いただき誠にありがとうございました。

学生らしく若さ溢れるエネルギーで、ご来場の皆さん全員に「元氣・笑顔」になつてもらいたい！という気持ちから、今年は「若さ全開」をテーマに掲げての開催でした。

初日は、時々冷たい雨が降るあいにくの天気となりましたが、開始を待ちかねたように早々から来場者が訪れました。メイン会場ではダンス同好会によるショーやPop Music Clubによる



演奏、児童生徒によるエレクトーン演奏や軽音楽部の3時間熱烈ライブ等のイベントがくり広げられました。そして午後6時からご当地アイドルの「Negicco」が登場。若さ溢れる歌とダンスを披露しました。会場では、葱型(「」)ライトを使つて踊る熱心なファンの姿も見られました。この他、体育館ではフリーマーケットが、講堂では吹奏楽部の演奏や紅葉祭初となる書道部のパフォーマンス、恒例のビンゴ大会が盛大に行われました。

父母の会文化講演会では、今年度の水球日本選手権を制覇したブルボンKZの中心選手で本学水球部監督の青柳 勲先生が講師となり、プロ選手の生活実態！をテーマにスペシャルトークが行われたほか、各教室でもゼミナールポスターセッションや国際文化研修写

学生がボランティアに参加



本学のボランティアサークル「青年赤十字奉仕団」の文化経済学科4年 宮越和之君と経済経営学科3年間 里奈さんが、夏季休暇期間を利用して、北海道で開催された「サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ kids cross」(日本赤十字社主催)に参加しました。

このサマーキャンプは、東日本大震災によって教育環境や生活環境の変化を余儀なくされた岩手・宮城・福島の子供たちに、日常を離れて大自然の中で多くの仲間とともに思いきり体を動かし楽しく伸びやかに過ごしてもらうことを目的に企画されたものです。

参加した二人は、全国から集まったボランティアスタッフの仲間と協力して、被災した子供達を元気に、そして笑顔にするプログラムの運営に携わりました。

応急救護やAEDの使い方の指導、乗馬体験や溪流釣り、キャンプファイヤーなどの活動を通して、子供たちと心を通わせることができました。

また、10月27日及び28日の二日間、柏崎地域振興局庁舎で「かしかり虹まつり2012」東日本大震災を忘れない」が開催され、学生総勢31名がボランティアスタッフとして参加しました。

このイベントは、柏崎刈羽(かしかり地域)の振興の一環として、地域資源となる「食と匠(鯛茶漬けや工芸品等)」と「文化(郷土芸能)」などを通じて、地域住民や震災で避難されている方々を元気にする「虹」の架け橋イベントとして新潟県が開催したものです。参加した学生達は、大勢の来場者を迎える中、様々な関連団体や地域の人々と協力してイベントの運営を行うことに興味を持った様子で、ボランティアの立場は体験してみないと分からない事があり、多くの収穫があったと話していました。



大学は美味しい!! フェアin新潟に出店

10月12日(金)・14日(日)にアオーレ長岡(長岡市)で開催された「大学は美味しい!! フェアin新潟」(主催: NPO法人プロジェクト88)に本学から阿部ゼミ、梅澤ゼミ、卓球部の学生が参加しました。「食」をテーマとしたこの企画は、大学と地域(主に食品企業)とのコラボで生まれた商品を、各々大学が持ち寄り、一大学一ブースで販売を行うという催し。県内5大学、県外2大学が出店し、3日間で約1万人近くが訪れる大きなイベントでした。ブースでは、学生達が協力しあい、企業の方と一緒に商品のPRを行いました。



「2012ビジネスグランプリin新潟」審査員奨励賞を受賞しました

将来の県内産業を担う起業家の発掘を目的として新潟県が主催した「2012ビジネスグランプリin新潟」で、経済学部文化経済学科2年の小林優香さんが見事「審査員奨励賞」を受賞し、12月22日(土)新潟市万代市民会館で授賞式が行われました。

小林さんのアイデアは、歴史好きで、いわゆる「歴史女」をターゲットにして、歴史上の偉人・戦国武将の衣装をレンタルするとい

通貨・風輪通貨の流れ」をテーマに講演を行いました。



うビジネスプランの提案で、偉人ゆかりの地の観光発展や着物文化の見直し等への期待も見込めるビジネスとして評価を受けました。



真展、私の主張in柏崎」日本語と外国語での意見発表会や朗読劇なども行われました。

2日目は、薄日が差す暖かな秋空の下での開催でした。メインイベントとなる「Ms.OOJA」(ミズオオジャ)ライブでは、午後2時30分の開場にも拘わらず朝6時頃から並ぶ人もいて、開演時には約400人が会場の体育館を熱くしていました。レーザービームが閃光を放ち、異空間と化した場内の雰囲気は最高潮に達しました。学生ホールや教室などでは、各部・サークル等による日頃の活動の成果の披露、来場者の誰もが楽しめる様々なイベントや模擬店が開催されました。

大成功のうちに終わった今年の紅葉祭、いかがでしたか?そして今年来られなかった皆さん、来年こそはぜひお越しください!!



図書館だより



クラブ・サークル活動



イルミネーション点灯中！
雪の降る寒い季節ですが、図書館の窓には暖かい光景が広がっています。
左の写真がその光景で、現在イルミネーションを点灯しています。これは、平成23年の学園祭で図書館が開いた古本市での売上金を原資とし、購入したものです。今年度も、図書館で除籍をした本・雑誌、教職員から寄付された一般書など、約1,500冊を出品し、古本市を開催しました。今年度の売上金の使途は検討中ですが、本学の教育環境充実のために、有効利用させていただきます。
ご購入いただきました皆さま、本当にありがとうございました。
平成24年度 古本市売上
¥24,270(130冊)

空手道部 全国選手権大会出場
第38回北信越学生空手道選手権大会男子組手競技において優勝しました。
その後、9月に行われたインカレの一回戦では日本体育大学と対戦し善戦及ばず敗戦となりましたが、この経験を糧に、来季は関東学生リーグの一部で二年ぶりに産大旋風を起こすことを期待しています！

*** 中部学生水球選手権試合結果 ***

第1試合	新潟産業大学	24-1	三重大学
第2試合	新潟産業大学	不戦勝	中京大学
第3試合	新潟産業大学	11-4	金沢工業大学

水球部男子 中部学生選手権水球競技優勝！
7月14日と15日の2日間、愛知県口論義運動公園室内プールにおいて第21回中部学生水球選手権大会が開催され、水球部男子が見事全勝優勝を果たしました。これにより20年連続となるインカレ(日本学生選手権水泳競技大会)の出場が決まりました。



古い資料から読み取れるもの
書庫で探しものをしていたところ、古い雑誌に目が留まりました。本学が専門学校であった時代に購読していたのでしょう。昭和22年頃の「経済ダイヤモンド雑誌」というタイトルの雑誌でした。現在は「週刊ダイヤモンド」として、継続されています。この新旧を比較してみると、企業の広告など、昔はこうだったのかと、見ていて楽しいものもありますが、今とあまり変わらないところもあります。フリースだけを見てもそれが一目瞭然。例えば、背景は違えど「復興」や「景気」「デフレ」「電力不足」など。歴史は繰り返すのかも知れません。それと同時に、受け継がれる本学の歴史を、この古い資料から実感させられました。
本学図書館は、貴重な宝の山でもあることをみなさんに知っていただければと思います。

ライフセービング部 全日本大会で活躍！
6月9日と10日の2日間、「第25回全日本ライフセービング種目別選手権大会」が柏崎市の柏崎中央海岸で開催され、全国から52チーム538名が参加しました。本学も、ライフセービング部のメンバー7名を中心とした計14名が出場し、ビーチフラッグス、ビーチランやサーフレース、ビーチス

た経済経営学科4年梅川達矢君と準優勝した同学科4年小林匠君が、第56回全日本学生空手道選手権大会(7月1日大阪・舞洲アリーナ)に駒を進めました。
全国大会では、梅川君が1回戦を勝ち上がり2回戦で敗退、小林君も奮闘しましたが、初戦突破はできませんでした。
全国の壁は厚いものがありましたが、二人は日々の練習の成果を出して悔いのない試合をやり切りました。
今回の二人の活躍は、本学空手道部がこれまで築いてきた歴史と伝統に深く刻み込まれ、後輩たちに引き継がれていくことでしょう。

専任教員著書紹介

片岡 直樹
(経済学部 教授)

「長谷寺銅板法華説相図の研究」

単行本：292p
出版社／中央公論美術出版
(2012/10/30出版)

本書は、平成24年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費－学術図書)の採択を受け、その助成金で出版されています



新潟産業大学
附属図書館
0257-24-8435
E-mail
library@ada.nsu.ac.jp

館長随想 K先生のこと
図書館長 片岡 直樹
経済学部教授

大学院生になって間もない頃、調べものがあって大学図書館に行き、検索カードをめくると、目当ての本は準特別図書だという。江戸明治以前の貴重書である特別、準特別図書は専用の資料室でのみ閲覧が許される。女性の職員が一人いるだけのさほど広くない部屋で、私は机に片肘をつき、手に持った和綴本をばらばらとめくっていた。すると、中年の男性がすっと横に立ち、「本はそんなふうに見えるものではないですね。机の上に開いて、そう、そうして丁寧にめくるものです。」あなたは文鎮を持つていないのですか？今度来るときには文鎮を持つて来て、押さえないが見るのですよ。」厳しく

も暖かみのある言葉に恐縮した私が礼をいうと、男性は静かに部屋を出て行く。ほんの数秒の出来事であった。
一部始終を見ていた職員に恥をしのんで訊くと、「K先生です。江戸文学のK先生です。」分野違いの私もその名には聞き覚えがあった。俳諧研究で知られたK先生なのであった。繊細な美術作品を扱う美術史学を専攻しながらも、そのときの私には十分な知識も心構えもなかったのである。
いま学芸員課程の実習で美術品の取り扱い方を教えている。仏像、絵巻、掛軸……。授業の準備をしながら思い出す三十年近くも前のこと。K先生の警咳に接したのは後にも先にもあの日の一度だけ。調べてみると先生は五年前に亡くなっていたのだ。私の年齢はあのかの先生をとうに越えている。あの日「教材」となった本の名も覚えていない。

プリントなどの種目において、日頃の鍛錬の成果を発揮しました。ビーチフラッグスは惜しくも決勝に進出できませんでしたが、全国ベスト16位を獲得し、サーフレースは決勝に進み26位と大健闘しました。
続いて、10月6日～7日に開催された第38回全日本ライフセービング選手権大会(神奈川県藤沢市片瀬西浜海水浴場)においてライフセービング部の経済経営学科4年安澤勇次君と同3年内山純太君がビーチリレーの部で5位入賞を収めました。当日は、全国59団体、総勢1,194名の選手が参加しました。
学生たちは、来年の大会に向けて「更に上位を目指す」と力強く語ってくれました。海での人命救助は、砂浜を走り、海を泳ぎ、一刻も早く救助対象者のもとに駆けつけることが重要です。本学のライフセービング部員たちは、さまざまな訓練や研修会、そして今回の競技会のような機会を経験を積み、地域の海の安全を守っています。「生命を救う」、その時に備えて真剣に戦う姿勢は圧巻です！

伝統芸能文化部が祭りに参加！
7月25日に開催された「ぎおん柏崎まつり・たる仁和賀」に、本学の伝統芸能文化部を中心とした学生達が、団体「神楽人」のメンバーとして参加しました。
今年は2年ぶりの参加ということで市民の方々からの期待も大きかった、という声もたくさんいただきました。
また参加した交換留学生も「一年間の留学生生活のとてもいい思い出になりました。」と日本のお祭りに大変感激していました。
参加者23名のうち19名が初参加でしたが、学生達は一生懸命踊り、祭りを盛り上げました。
続いて11月11日柏崎市民プラザで開催された「マナビステーション」かわざき2012においても伝統芸能文化部は「花のワルツ」で日本舞踊を披露しました。
市民の多くの方々から心あたたまるご声援をいただき、本当にありがとうございます。来年もさらに伝統文化の学習を重ね、踊りの稽古に精進して、若い力でこれからも地域を盛り上げていきます！

キャリアサポート

就職支援と キャリア教育



就職委員長
経済学部教授
橋本次郎

12月から合同企業説明会が始まり、企業へのエントリー（応募）が本格化する。いよいよ平成26年3月卒業予定者（現在3年生）の就職活動本番が始まった。12月22日（土曜）に丸一日を使って「就職活動集中対策講座（第17回就職合宿研修会）」を実施した。主な研修内容は①グループディスカッション、②マナー実践演習、③模擬面接（個人面接）、④4年生の就職体験談と質問会である。30名が研修会に参加し、決意も新たに就職活動に突入していった。彼ら彼女らをはじめ就職に挑戦するすべての学生の内定獲得を祈らずにはおられない。各人の就職成就を願うとともに、大学挙げて就職支援を全力で行って参る所存である。

本学の就職支援に関連するキャリア教育を少し過去にさかのぼってみると、平成16年以前から行われていたものに「インターンシップ」「キャリアデザイン」があり、当時は専門科目の中に潜り込ませるように配置してい

た。これらの科目は社会人になるための準備の一助となる科目である。他には「ボランティア活動論（実践編）」があり、この科目は学外に出て少しでも社会を知り、社会に貢献するために行ってきた。

平成18年からは大学の改組と学生気質の変化を受けて、本学では専門科目の一部でなく基礎科目として1年次に「ボランティア活動論」、2年次に「キャリアデザイン」、3年次に「コミュニケーションの技法」「インターンシップ」などが年次配当されることになった。カリキュラムには大きく分けて基礎科目、専門科目、教養（語学を含む）科目の3本柱があり、その一角にキャリア関連科目が配置されることになった。同時にこれらの科目は、すべての学生にとって重要な履修科目の対象になり、履修者の増加につながっていった。

平成21年度からは更にその位置づけを明確化させるために基礎科目の中に「社会人基礎力養成科目」を作り、科目内容の充実・発展のために今までの「キャリアデザイン」を「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」に展開し、「ビジネスマナー演習」を追加した。これらの科目は以前から広く行われていた様々な内容の就職ガイダンスや就職セミナー、就職対策講座の一部を取り出して授業科目化したものである。これらの就職ガイダンス等は授業終了後の自主参加が基本であったが、参加者の減少傾向が続き、就職活動に必要な内容が適切な時期

に十分伝わらないことなどが原因となつて授業化につながった。特に「キャリアデザインⅠ」では職業意識の高め方とキャリアビジョンの立て方を通して自身の進路を自分で決定できる力を養う。「キャリアデザインⅡ」では自身の人生設計・キャリア形成を実現するために必要な知識を学ぶと同時に、卒業後の第一歩を踏み出す力を養う。「キャリアデザインⅢ」では本番の就職活動に対する心構えや実践的スキルを身につけ就職活動に取り組む力を養成する。今年度の現3年生の中にはこのキャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲを履修した学生が就職戦線に躍り出ることになりその成果を楽しみにしている。

平成25年度から新カリキュラムがスタートする。長引く長期景気低迷と若者の深刻な雇用環境の悪化が大卒の就職環境を厳しくしている。就職に対する学生意識も大きく二分化してきている。危機感をもって1年次から高い就職意識をもって準備する学生と就職活動時の直前・本番になつても就職意識の低い学生とに分かれてきている。就職意識の高い学生には就職筆記試験対策につながる授業内容を「キャリアデザイン演習Ⅰ」「キャリアデザイン演習Ⅱ」「キャリアデザイン演習Ⅲ」として新設した。就職意識の低い学生には現在展開されている「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」の全員履修を図っていきたいと考えている。これにより本学のキャリア教育のレベルアップを更に高めたいと思う。



4年生の就職体験談



五十嵐さん 若月くん

充実した大学生活を

日本精機(株) 内定
経済学部 経済経営学科

若月 正明

私は、3年次の3月に第一希望の県内大手メーカーから内定をいただき、幸いにも非常に早い時期に終了することが出来ました。

私は3年次の8月まで中国留学のため日本を離れておりましたが、就職活動に出遅れるのではないかとという危機感が強く、帰国後はすぐさま就職活動モードに切り替え、本格的に就職活動を始めました。

最初に参加したイベントは、就職課で紹介いただいた9月の長岡の企業を回るバスツアーでした。せっかく参加したからには、何かしらの収穫を得られるようにと自分のアピールを含め、なるべく質問をするように心掛けました。積

極的に企業の方と話すことにより仕事のイメージが明確になりましたし、何よりも内定先企業と出会うきっかけとなったことが、このバスツアーの大きな収穫でした。その後も、合同企業説明会などに参加した際には、その都度質問することが習慣になり、毎回人事の方々と話す機会をとても楽しみに就職活動を送ることが出来ました。

今、就職活動を振り返って感じることは、自分なりに充実した大学生活を過ごすことが就職活動に非常に重要であるということです。

私は、2年間の中国留学や学友会、日中コミュニケーションサークル、伝統芸能文化部、市内小学生を対象とした「地球くらぶ」の学内外の活動等、興味を持ったことには積極的に参加するようにしていました。就職活動において企業から問われることは「エントリーシート」や「履歴書」、「面接」や「論文」と形態は様々ですが、基本的には「大学生活で何をしてきたか?」「それによりどう成長できたか?」「という事でしたので、質問内容に応じて自分自身の経験を素直に伝えることが出来まし



た。1・2

年生の皆さんは就職で浮足立つことなく大学生活を有意義に過ごすことを意識してください。



3年生の皆さんは昨年の12月より就職活動が始まりました。当然のように失敗したり、選考にもれたりもしますが、そこで挫けないでください。その失敗を次にどう活かすかが大事だと思います。精神的にも肉体的にも辛いことはありましたが、就職活動を経験することで成長できたことも沢山あります。常に前向きに明るく取り組んでください。後輩諸君の健闘を祈ります。

自分らしく就職活動

シマト工業(株) 内定
経済学部 文化経済学科

五十嵐 未帆

就職活動を意識し始めたのは、大学3年生の4月に行われる就職ガイダンスでした。そのガイダンスで、履歴書の書き方や就職活動をする上での心構えなどを聞き、就職できるかという不安と今できることを精一杯しようという熱意がありました。

まず、この今できることは何かと考えた時に思い浮かんだのが、試験勉強と新聞を毎日読むことと、自己分析です。試験勉強や新聞を読むことについては、短時間でも続けるようにしました。また、自分を知る1つの手法として、大学指定の履歴書を書き込み校正

することを行いました。そこには志望理由はもちろんのこと、長所や授業に関することなども書かなければいけません。長所の例を挙げさせてもらうと、私は以前まで「責任感が強い」と思っていました。ですが、就職課の方やキャリアアドバイザーの方に相談して、このことを具体的に説明できないことが分かり、長所を伝えられていないことが分かりました。それからは先生方と一緒に話し、常に高い目標を持って行動する私を「努力を惜しまない」という長所に変えてくれ、新しい長所に気付かせてもらいました。



また、12月には企業へのエントリーや合同企業説明会への参加、業界研究などにも力を入れ、1月の上旬にはこれらのことを続けながら会社説明会に参加しました。始めの頃は、全部が初体験ということで、人の真似ばかりしていました。企業の方に質問する時も他の学生の真似になつていました。社会人の兄からもアドバイスしてもらいましたが、とにかく自分に自信が持てませんでした。採用試験を受ける時期になると、さらに自信がなくなり、意味もなく他の学生と比べていました。悪い評価をもらう時があると「なんでこんなに頑張っているのに誰も分かってくれないんだろ」と思うことも沢山ありました。そんな時、母に「う、就職しなくちゃいけないことはないし、大切なのは自分らしくいることだよ」と言ってもらえ、肩の荷がおりた気持ちになりました。それから、4月の中旬に「入りたい」と思える企業に内定をもらえ、志望する企業で働けるということと今までの辛かったことを思い出し号泣しました。

振り返ってみると、毎日が辛くて逃げ出したかったです。その分得るものもありました。他の学生と比べないことや自分らしくいることが大切だと分かりました。正直、自分1人では何も出来なくて周りの方々の支えが励みとなりました。特に母には感謝しています。私以上に就職できるか心配だったのに、見守ってくれ、応援してくれたことは支えになりました。これから社会人として行動しますが、周りの方々に感謝する気持ちと向上心を忘れずに私らしく頑張っていきたいと思います。

Back to School (生涯学習センター)

生涯学習センターの 転換期



生涯学習センター長
経済学部教授
梅澤 精

新潟産業大学の生涯学習センターは今年で14年目を迎えますが、今、本センターの役割は転換期にあります。これまで、地域社会に対して閉鎖的だった大学をまずは開放して、市民の皆さんに大学の知的な財産の一部を「おすそわけ」することが求められていました。数回の公開講座や一回限りの公開講演会などがその役割を

担っていました。しかし、理念的に考えてみれば、学習とは年齢に関係なく必要や希望があれば生涯にわたっていつでも本格的に学び、知的に成長すること、つまり「生涯学習」だと言うことができます。欧米の大学では、学生の半数は一度就職した社会人だと聞きます。この人たちは再び学ぶために大学に戻ってきたのです。職場はいつでも従業員を大学に送り出し、大学はいつでも社会人を受け入れます。そもそも、社会人か高校の新卒生かの区別などないのです。日本の大学もそうした生涯学習の場になる時期にきていると思います。

も、リタイアした後の学び残しの解消でも、あるいは新しい職場で必要となる知識の獲得でも、勉強や学習の種は尽きません(浜の真砂は尽きるとしても……)。新潟産業大学の生涯学習センターはそうした本来の生涯学習の理念にもとづいて、これまでの活動を大きく転換させ、市民の皆様が大学の正規学生になつていただくことを目指します。

その入り口として、当センターでは正規学生と一緒に15回フルの講義を一つでも受講できる「聴講講座」を用意しています。現在もこの聴講講座を受講している方々がいらつしやいます。市民の皆さんが加わることで、授業の雰囲気



聴講講座

春期には48講座中20の講座に、市民の方延べ50名が受講されました。秋期は38講座中21講座に延べ63名の市民の方が、大学生と一緒に受講しています。真剣なまなざ



しが印象的です。

今年度、初めての試みとして、TOEIC受験対策講座を、聴講講座として市民の皆様が開いたしました。

新潟産業大学にぜひお越しください。

かわさき市民大学

後期の講座、「かわさきを知る」これからの伝えたい柏崎の「財」の4～6回に片岡直樹教授



が出講しました。第6回はフィールドワークで、座学の授業で学んだ柏崎の文化財を、実際に見て、その保管を行っている方にお話を聞きました。(受講者数45)

「私たちと柏崎」スポーツにかける想いから」には青柳勘助手

聴講講座のご案内

新潟産業大学では、一般・社会人を対象とした聴講講座を開講しています。

聴講講座は、本学で開講している講義から興味のあるものを1科目単位で選び、学生連と席を並べ聴講していただく講座です。性別、年齢、学歴等に関係なくどなたでも受講できます。一つの科目につき、基本的に週1回同一の曜日時限(90分)で15週にわたり開講しています。(単位認定は行いません)2週目の授業まで、無料で全ての講義を聴講できます。3週目以降の受講を希望される場合は有料となり、教務課で所定の申し込み手続きをしていただきます。

講座の詳細・最新情報は、本学Webサイト <http://www.nsu.ac.jp/nsu/jl/c/index.html> にて確認いただけます。

または生涯学習センター(☎0257-24-8441)までお気軽にお問い合わせください。

出張講義のご案内

新潟産業大学では、本学教員が高等学校等に出向いて講義を行う「出張講義」に積極的に対応しております。大学の専門分

新潟産業大学 教育研究支援 奨学金のお願い

新潟産業大学では、教育研究活動全般の充実・発展を図るため、広くご寄付をお願いしております。いただきましたご寄付は、「地域社会や企業を主体的に支える人材の育成」という本学の教育理念の達成のために活用させていただきます。

何卒、皆様の格別のご支援をお願い申し上げます。

※学校法人への寄附金(2,000円以上)には、税額控除制度が適用されます。

(担当窓口) 新潟産業大学 総務課 ☎0257-24-6055
Mail:soumu@ada.nsu.ac.jp

アルフォーレ文化塾 「日本語」

柏崎市文化会館アルフォーレ開館記念として、本学次期学長の北原保雄氏が連続3回の講座を行っています。12月16日に開催された第1回目の講座には90名が参加し、満員の盛況ぶりでした。今後の日程は下記のとおりです。

第2回 「問題な日本語」が辞書

に載るまで」

平成25年1月13日(日)

14時～

第3回 「敬語の正しい使い方」

平成25年3月20日(水・祝)

14時～

各回のチケットについては、柏崎市文化会館アルフォーレ(☎0257-21-0010)にお問い合わせください。

平成24年度 「ことばのひびき」を 開催します

今年度で9回目となる詩の朗読会「ことばのひびき」を次のとおり開催します。市内の高校生や本学学生ら約20名が、日ごろの学習・研究の成果を発揮し、日本語や外国語で詩の世界を詠みあげます。

多くの方のご来場をお待ちしております。

日時：平成25年2月11日(月・祝)

13時30分～15時

場所：柏崎エネルギーホール

平成25年度 新潟産業 大学 生涯学習センター 「友の会」入会のご案内

本学生涯学習センター「友の会」は、平成13年度に発足してから今年で12年目を迎えます。今年度の会員数は、36名となりました。特典

1. 受講料の割引：本学主催の各講座が20%の割引となります。
2. 講座の先行受付
3. 会報等資料送付
4. 懇談会への参加(今年度は平成25年3月15日(金)開催予定)などです。

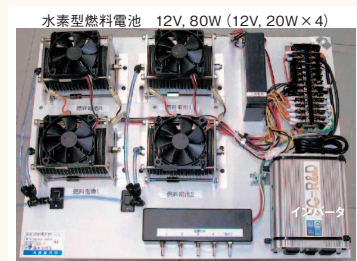
申込方法

1. 郵送 FAX・Eメールまたは大学窓口にてお申し込み下さい。
2. 年会費(一般会員)は、2,000円です。
3. 新規会員の方には、会員カードをお渡しいたします。
4. 入会期間は、平成25年4月1日～平成26年3月31日の1年間となります。

詳細につきましては、

<http://www.nsu.ac.jp/nsu/jl/c/tomonokai/info.html> をご覧ください。

新潟産業大学・生涯学習センター
☎0257-24-8441
☎0257-22-1300
E-mail: llc@ada.nsu.ac.jp



月3日と11月4日には、本学第1コンピュータ実習室で「理解しよう、カラー画像の原理」の講座を開きました。(受講者数10名)

修学支援制度について

新潟産業大学は、経済的事情により修学が困難な学生に対し、授業料の半額を免除する制度を設けています。

先行きの見えない不況下、勉学意欲がありながら、やむを得ず大学進学をあきらめるケースや、入学後にも保護者の失業等で学業の継続について常に不安を持ち、修学に専念できない等のケースが、全国の大学で報告されています。

本学では独自の支援制度を実施することにより大学進学や学業継続にかかる家計負担を軽減し、本学で修学する意欲を持つ学生をサポートしています。

対象者	学費負担者および家計を一にする家族(以下「学費負担者等」)の経済的理由により、修学が困難な学生。
申請要件 (年間所得の上限)	自宅通学者：300万円程度以下 自宅外通学者：350万円程度以下
軽減額	年間授業料(660,000円)の半額を免除(軽減期間は1年間)。 ※2年次以降は、審査により更新可。

修学支援制度に関するお問合せ
先：新潟産業大学入試課
0120-787-124

平成25年度入試日程概要(各学科共通)

入試区分	一般前期日程 (2科目方式)	センター利用 前期日程	一般後期日程 (2科目方式)	センター利用 後期日程
出願期間	H25.1/7(月)～1/29(火)	H25.1/7(月)～1/31(木)	H25.2/13(水)～3/15(金)	H25.2/13(水)～3/15(金)
試験日	H25.2/2(土)		H25.3/20(水)	
合格発表	H25.2/12(火)		H25.3/22(金)	
試験会場	柏崎・新潟・富山・酒田・郡山		柏崎・新潟	

入試の詳細・大学院経済学研究科の入試については、2013入学試験要項でご確認ください。

学事日程(平成25年1月～6月)

平成24年度			平成25年度		
月	日	行事等	月	日	行事等
1月	7日(月) 15日(火) ～17日(木) 28日(月)～	授業開始 補講日 秋学期末試験期間	4月	3日(水) 4日(木) ～5日(金) 5日(金) ～6日(土)	入学式 ガイダンス・健康診断 新入生学外合宿研修
2月	～1日(金) 3日(日) 4日(月) 8日(金) 21日(木) 24日(日) 27日(水)	秋学期末試験期間 日本漢字能力検定 秋学期末試験予備日 追試験 卒業生発表・成績表配付 日商簿記検定 再試験		8日(月) 8日(月) ～12日(金) 29日(月) (昭和の日)	春学期授業開始 履修登録期間 通常授業
3月	5日(火) 16日(土) 24日(日)	再試験による卒業生発表 卒業式 中国語検定	5月	1日(水) 2日(木)	昭和の日振替休業日 海の日(7/15)振替休業日
			6月	2日(日) 8日(土)	創立記念日 父母の会総会(予定)

表紙の写真

「スコットランドの エディンバラ城」

撮影者 金光林
経済学部教授



この写真は2011年8月に私がイギリスでのバスツアーの際に撮ったものです。

エディンバラ城はスコットランドの王たちの居城として、軍事上の要塞として使われ、現在、12世紀から16世紀の間に建造した建物が残っています。

毎年、この城でスコットランドのパレード、ミリタリータトゥーが行われています。

編集後記

12月16日に衆議院選挙が行われました。

数多くの政党が乱立した状況で投票日を迎えた今回の選挙では、投票にあたり、消費増税、原発、TPP交渉参加の是非、そして景気対策等について、各党の主張する政策を自分の考えに照らし合わせる作業が必要でした。

この確認は、日本の現状に対する自分のスタンスを知る上でとても有益でしたが、今回いろいろ調べていると、一つ興味深いことが書いてありました。

政党の選挙公約は、おおむね高齢者に手厚く、若年層には少し厳しいものになりがちなのだそうです。

理由は各年齢層別の投票率を見れば、言わずもがな明かです。今回の選挙でも、50～70歳代で約80%の投票率に対し20歳代の投票率は約50%にとどまったようで、公約が「投票を見込める有権者層」を意識したものとなるのは当然なのかもしれません。

その具体的な公約については記述がありませんでしたが、もし本当であれば、若年層の政治的無関心は、諸政策への意思決定プロセスについて間接的に影響を及ぼしていることになる、と考えさせられました。

さて、今号の誌面でも触れましたが、新潟産業大学においては、広川俊男学長の任期満了に伴い、平成25年4月1日から北原保雄新学長が就任することになりました。

北原新学長が描くビジョン、新潟産業大学の未来への展望について、次号の巻頭特集インタビューでお伝えしたいと思います。

新潟産業大学 メディア・広報・企画課



青海波 (せいがいはい)

雅楽の舞人の装束に用いられた波形文様で、同心円状の波を前後左右交互に重ねた幾何学的な文様。

この文様の由来は遠くシルクロードまで遡るとされており、これを本学の校章(3つの波)に重ね合わせ、地域を知り世界を知ることの象徴として、本学の情報発信媒体である学報の名称に採用しました。

●発行 日／平成24年12月31日

●編集・発行／新潟産業大学広報委員会

新潟県柏崎市軽井川4730番地 TEL 0257-24-6655 FAX 0257-22-1300